

2024年7月18日

**明治安田「夏に関するアンケート調査」を実施
旅行は夏の定番！物価高でお金を“使う人”“使わない人”に二分！
夏休みはGWの“安・近・短”から“高・遠・長”に！**

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、夏休みを前に「夏に関するアンケート調査」を実施しましたのでご報告します。

1. 夏休みの予算（詳細は6～8ページ参照）

**夏休みの予算は3年連続増加！物価高騰でも旅行は夏の定番！
“物価高でもお金を使う人”、“物価高だからお金を使わない人”に二分！**

- ・ 今年の夏休みに使う金額は平均「82,964円」と、昨年（72,668円）から1万円以上（10,296円）増え、3年連続で増加し、2018年以来6年ぶりに8万円台に！
- ・ 夏休みに使う金額を昨年より「増やす」と回答した人は16.0%と、昨年（16.6%）からほぼ横ばいも、昨年より「減らす」と回答した人は20.0%で、昨年（15.0%）から5.0pt増加し、「減らす」人が「増やす」人を逆転する結果に！
- ・ 夏休みに使う金額を昨年より「増やす」と回答した人の理由のトップは、「旅行に行くため」（72.6%）で、昨年の67.7%から4.9pt増加
- ・ 夏休みに使う金額について、国内旅行に行く人の平均は「137,357円」と昨年の「107,836円」を、海外旅行に行く人の平均は「438,125円」と昨年の「312,326円」をそれぞれ大幅に上回る結果となり、夏休みの定番である旅行には物価高や円安の影響で旅行費用が高騰している状況でも、惜しみなくお金をかける人が多数いることが、予算増加の要因に
- ・ 一方で、夏休みに使う金額を「減らす」額は、平均で「27,656円」と、昨年の「24,774円」を約3,000円上回り、「減らす」人も「減らす」金額も増加
- ・ また、昨年より使う金額を「減らす」と回答した人の6割以上（63.8%）が、その理由を「物価高騰により家計が厳しくなったため」と回答。“物価高でもお金を使う人”と“物価高だからお金を使わない人”に二分！

明治安田総合研究所 エコノミスト 木村 彩月が
夏休みの予算について分析！

【ご照会先】
広報部 広報グループ TEL 03-3283-8054

明治安田生命保険相互会社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1



2. 夏休みの日数・期間（詳細は9～10ページ参照）

5年前と比較して社会人の夏休み日数の増加は0.8日にとどまる！ 計画を早く立てている人ほど“長く”“予算をかけた”夏休みに！

- ・ 会社員・公務員で「夏休みを取得予定」と回答した人は7割以上（71.5%）！
- ・ 会社員・公務員の夏休み日数の平均は7.4日で、暦が今年と全く同じ2019年調査時（8月11日日曜日が山の日）の、平均6.6日から0.8日の増加にとどまり、ワークライフバランスが叫ばれ続けているなか、企業の人手不足が夏休み取得の足かせに？
- ・ また、会社員・公務員のうち、夏休みの日程が「決まっている」と回答した人は、夏休みを平均8.4日取得し、6割以上（60.1%）が「旅行に行く」と回答！さらに使う予算の平均は「148,690円」に！
- ・ 一方で、夏休みの日程が「決まっていない」と回答した人は、夏休みの平均取得日数が5.2日にとどまり、旅行に行く人も半数以下（46.8%）、使う予算の平均も「87,868円」という結果に。早い段階で計画的に夏休みを取得する人の方がより長く、より予算をかけて旅行を楽しむ夏休みになる傾向か？

3. 夏休みの過ごし方（詳細は11～14ページ参照）

物価高でも夏といえば旅行！お金をかけても旅行は欠かさない！ 夏休みはGWの“安・近・短”から“高・遠・長”に！

（1）過ごし方について

- ・ 今年の夏休みに「外出する」人は58.5%（昨年56.6%）、「外出しない」人は41.5%（昨年43.4%）と昨年と同様の結果に！
- ・ 外出する人の過ごし方は「国内旅行（56.9%）」が昨年（54.6%）から増加し今年もトップ。一方で、「帰省」は22.0%と昨年の26.2%から減少し、昨年コロナ明けで増加した「帰省」から「旅行」へシフト！一方、円安の影響か、「海外旅行」は7.3%と昨年（8.7%）から減少
- ・ 旅行に行く理由は「毎年旅行に行っているため」が52.5%でトップに。「毎年旅行に行っている」人のうち、3割以上（33.0%）が「夏休みに使う予算を増やす」と回答（全体：16.0%）し、約8割（77.3%）が「GWも旅行に行っていた」と回答！定期的に旅行に行く人は、物価高により旅行費用が高騰している状況でも、惜しみなくお金をかけて旅行に行くという傾向に！
- ・ 一方で、「外出しない」と回答した人（41.5%）に理由を聞くと、「暑いから」が43.7%（昨年37.0%）、「混雑するから」が34.6%（昨年29.4%）、「物価が高騰しているから」が32.7%（昨年29.8%）といずれも昨年より増加し、**トップ3に！**物価高よりも、猛威を振るう暑さが外出の最大の障壁に！また、「混雑するから」が昨年の4位から2位へ上昇し、昨今のオーバーツーリズム問題も外出に影響か！

(2) 昨年の旅行との違いについて

- ・「国内旅行」または「海外旅行」については、昨年よりも「費用を増やす」(31.1%)、「遠くに行く」(24.6%)、「日数を増やす」(21.8%)人が多数と、昨年の旅行より“高(高い)・遠(遠い)・長(長い)”となる傾向に！
- ・暦の関係で休みを長くとりにくかったことに加え、物価高の影響もあり、安(安い)・近(近い)・短(短い)の傾向があった今年のGWとは対照的な結果に！
- ・昨年の旅行から変わった理由は、「物価高で費用を上げざるを得ないから」(36.5%)がトップとなり、過ごし方でも記載の通り、定期的に旅行に行く人は、物価高などにより旅行費用が高騰している状況でも、お金をかけても旅行に行くという傾向が！

明治安田総合研究所 エコノミスト 前田 和孝 が
夏休みの過ごし方について分析！

4. 夏のボーナス(詳細は15~16ページ参照)

6割の世帯がボーナスを受け取っているものの、半数以上が金額に不満！

- ・夏のボーナスは約6割(60.4%)の世帯が受け取っているものの、受け取っている人の半数以上(56.6%)がボーナスの金額を不満と回答。その理由の1位は「物価上昇によって増えた出費を考えると不十分な額だから」(60.3%)と、物価上昇にボーナスの金額が追いついていないことが伺える結果に

5. 夏の暑さ対策(詳細は17~18ページ参照)

暑さ対策として意識的に自宅以外で過ごす人も！

暑さ対策を「特に意識しない人」のうち60・70代が約4割も！

- ・暑さ対策の過ごし方として、「自宅でエアコンを使用して過ごす」が62.1%でトップ。値上がりする電気料金や、物価高の影響もあり、「ショッピングセンター等の商業施設で過ごす」が20.7%、「カフェ等の飲食店で過ごす」が11.1%、「図書館等の公共施設で過ごす」が10.7%と、意識的に自宅以外で過ごす人が一定数いるという結果に
- ・記録的な暑さが続く状況にも関わらず、暑さ対策について「特に意識せず過ごす」と回答した人は4人に1人(25.8%)に！年代別にみると、60・70代が約4割(38.3%)を占めており、観測史上最も暑くなった昨年に匹敵する暑さとなる可能性があると言われるこの夏は、特に年齢が高い人を中心に、暑さ対策を講じて欲しい

対象者の属性

1. 調査対象

20代から50代までの男女 1,120人

(注)「5. 夏の暑さ対策」は、20代から70代までの男女1,680人のデータを使用

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2024年6月14日（金）～6月21日（金）

4. 調査方法

インターネット調査

5. 回答者の内訳

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	140	140	140	140	140	140	840
女性	140	140	140	140	140	140	840
計	280	280	280	280	280	280	1,680

【 目 次 】

1. 夏休みの予算	6 ページ
2. 夏休みの日数・期間	9 ページ
3. 夏休みの過ごし方	11 ページ
4. 夏のボーナス	15 ページ
5. 夏の暑さ対策	17 ページ

1. 夏休みの予算

**夏休みの予算は3年連続増加！物価高騰でも旅行は夏の定番！
“物価高でもお金を使う人”、“物価高だからお金を使わない人”に二分！**

- 今年の夏休みに使う金額について聞いたところ、平均額は「82,964円」（前年差+10,296円）と、昨年（72,668円）に引き続き前年から増加し、3年連続で増加となりました。
- 新型コロナウイルス感染者数の増加や行動制限の影響等により、夏休みの予算は減少傾向が続き、2021年には過去最低額（53,807円）を記録しましたが、行動制限の緩和等に伴い、2022年から増加に転じてV字回復する中で、今年は2018年以来6年ぶりの8万円台となり、ピークだった2015年の水準（89,296円）に近付きつつあります。
- 夏休みに使う金額を昨年より「増やす予定」と回答した人は16.0%と、昨年（16.6%）と同水準も、昨年より「減らす予定」と回答した人は20.0%と、昨年（15.0%）から増加し、「減らす予定」の人の方が、「増やす予定」の人よりも多くなりました。
- 夏休みに使う金額を昨年より「増やす予定」と回答した人にその理由を聞いたところ、7割以上（72.6%）が「旅行に行くため」と回答し、昨年（67.7%）から4.9pt増加しました。
- 夏休みに使う金額について、「国内旅行」に行く人は平均で「137,357円」と昨年の「107,836円」から「29,521円」増加、「海外旅行」に行く人の平均は「438,125円」と昨年の「312,326円」から「125,799円」増加と、それぞれ大幅に増えており、昨今の物価高や円安の影響で旅行費用が高騰している状況でも、夏休みの定番である旅行には、惜しみなくお金をかける人が多数いるという結果となりました。
- 一方で、夏休みに使う金額を昨年より「減らす予定」と回答した人（20.0%）に減らす金額を聞いたところ、平均で「27,656円」と、昨年の「24,774円」を「2,882円」上回り、「減らす予定の人」も「減らす金額」も昨年より増えました。
- 夏休みに使う金額を昨年より「減らす予定」と回答した人にその理由を聞いたところ、6割以上（63.8%）が「物価高騰により家計が厳しくなったため」と回答しています。物価高の状況でも、旅行に行く人を中心にお金を使う人は昨年以上に使っている一方、物価高の影響でお金を使わない人は昨年よりも使わなくなっており、“使う人”と“使わない人”の二分が顕著になったことが分かりました。

～エコノミスト 木村 彩月はこう見る！～

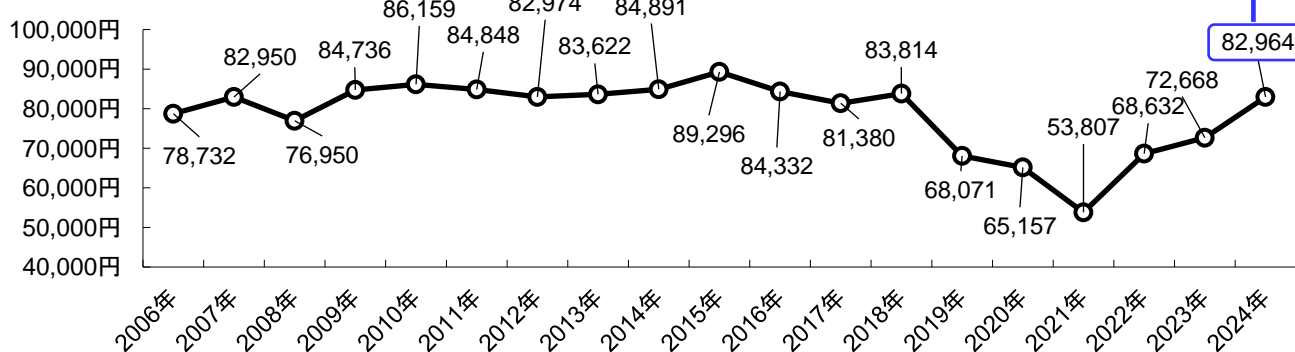
■明治安田総合研究所 経済調査部 エコノミスト 木村 彩月



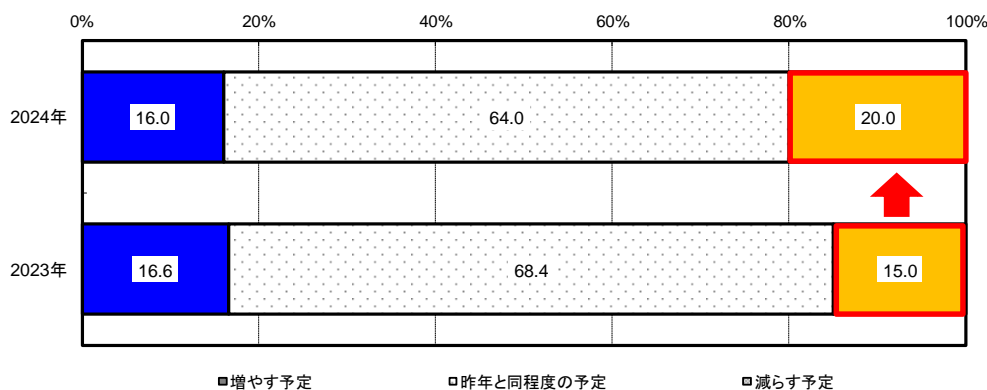
夏休みの予算の平均金額は昨年から1割以上アップしました。今年6月からは定額減税がスタートしたほか、今年の春闘で高い賃上げが確実視されていたことなどが、予算アップにつながったとみられます。

一方、予算を「減らす」と回答した割合も昨年より増加しました。その理由として、昨年同様6割以上が物価高騰を挙げています。インフレ防衛に努める家計の財布のひもは依然強く、少ない予算で夏休みを楽しむための方策が、お父さん、お母さんの夏休みの宿題となっていそうです。ただ、直近5月の消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、前年比+2.5%と、昨年同期（同+3.2%）に比べ、伸び幅が縮小しています。物価高を体感しやすい食料価格についても、同+3.2%と、昨年同期（同+9.2%）から大きく伸びが鈍化しており、食料品の値上げラッシュは落ち着きつつあります。昨年の水準を上回る円安の進行により、輸入物価の高騰などが懸念されているため、まだ安心はできませんが、今後は徐々に暮らし向きの改善が実感できるようになりそうです。

■夏休みに使う金額の推移



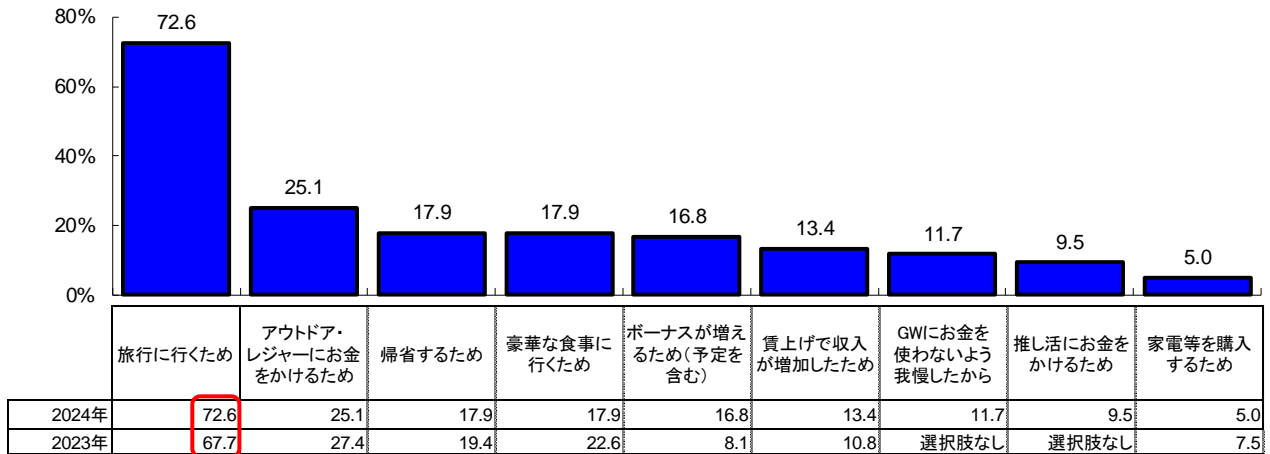
■夏休みに使う金額の変化



「減らす予定」の人が昨年から5.0pt増加し、「増やす予定」の人より多くなった

■夏休みに使う金額を「増やす」理由（複数回答）

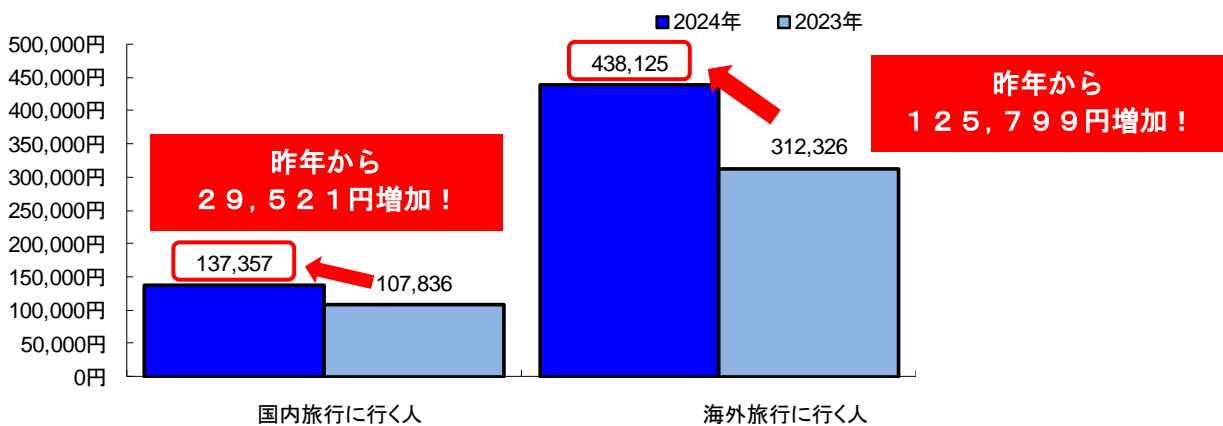
（回答対象：夏休みに使う金額を増やす予定の人）



昨年から4.9 p t 増

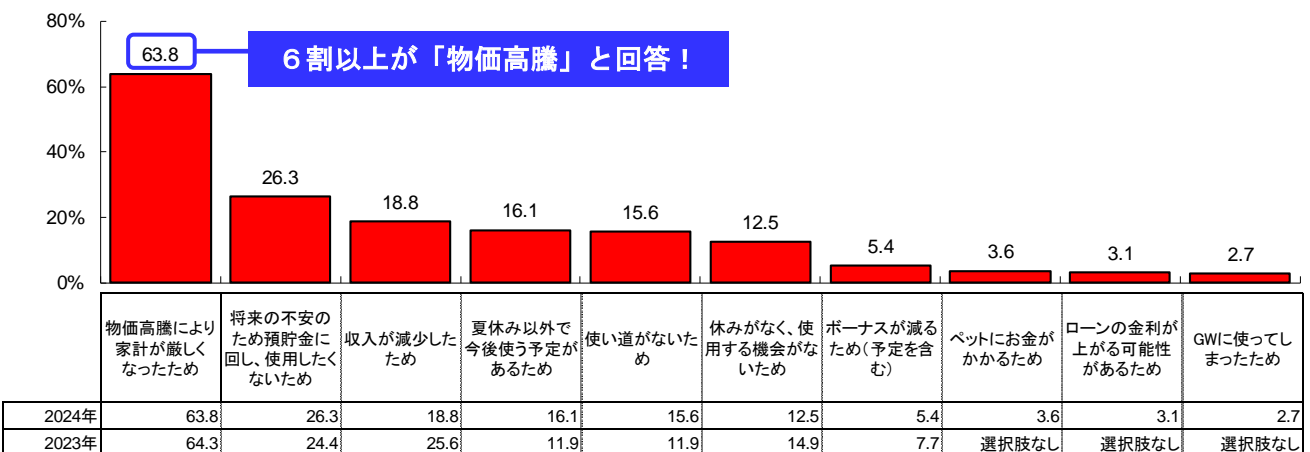
■「国内旅行」「海外旅行」に行く人の夏休みに使う金額

（回答対象：夏休みに国内旅行、海外旅行に行く人）



■夏休みに使う金額を「減らす」理由（複数回答）

（回答対象：夏休みに使う金額を減らす予定の人）



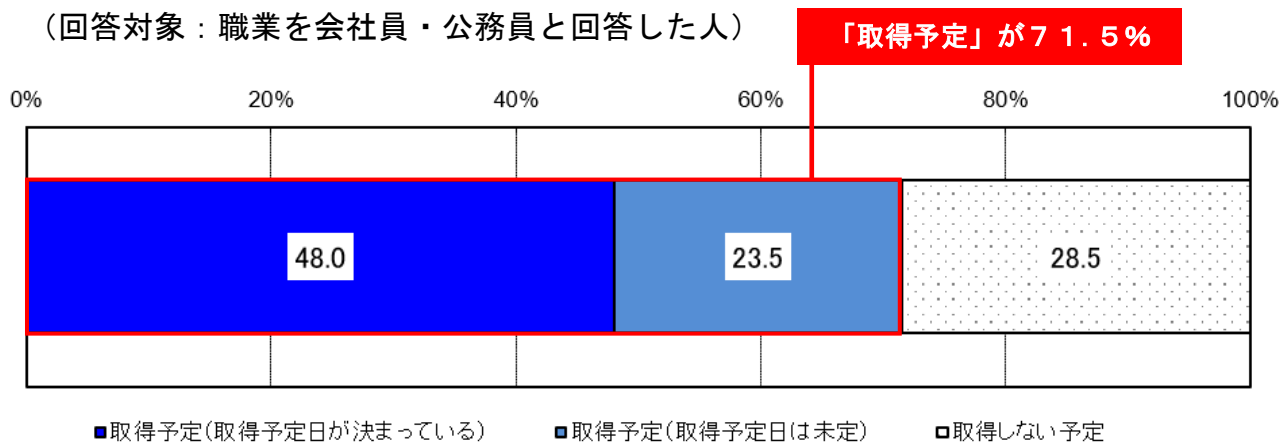
2. 夏休みの日数・期間

**5年前と比較して社会人の夏休み日数の増加は0.8日にとどまる！
計画を早く立てている人ほど“長く”“予算をかけた”夏休みに！**

- 会社員・公務員のうち、夏休み（7月から9月の間にまとまった休み）を取得予定の人は7割以上（71.5%）という結果になりました。
- 会社員・公務員で夏休みを取得すると回答した人の平均取得日数は7.4日と、暦が今年と全く同じ2019年の調査時（8月11日日曜日が山の日）の平均日数である、6.6日から、0.8日の増加にとどまる結果となりました。近年ワークライフバランスが重視されている中でも、人手不足が足かせとなっただけで、日数に大きな進展は見られませんでした。
- また、会社員・公務員のうち、夏休みの日程が「決まっている」人は夏休みを平均で8.4日取得し、そのうち6割以上（60.1%）が旅行に行くことを計画していることもあり、夏休みに使う金額は平均で「148,690円」という結果になりました。
- 一方で、夏休みの日程が「決まっていない」人の夏休みは平均5.2日にとどまり、そのうち旅行に行く人は半数以下（46.8%）となり、使う金額も平均「87,868円」という結果になりました。夏休みを早い段階で計画している人は、長く夏休みを取得し、旅行などでお金を使う夏休みになるという傾向がみられました。
- 会社員・公務員の夏休み開始日は、8月10日（土）が36.5%、終了日は8月18日（日）が27.7%と1番多く、平日を4日休めば、土日・祝日とあわせて9連休となる、お盆の時期が人気となりました。
- 一方で、終了日では8月15日（木）が11.7%と2番目に多く、土日・祝日とあわせて長く休み続けるのは、仕事の都合上難しいことや、長く休むことが心配な社会人も多いということが分かりました。

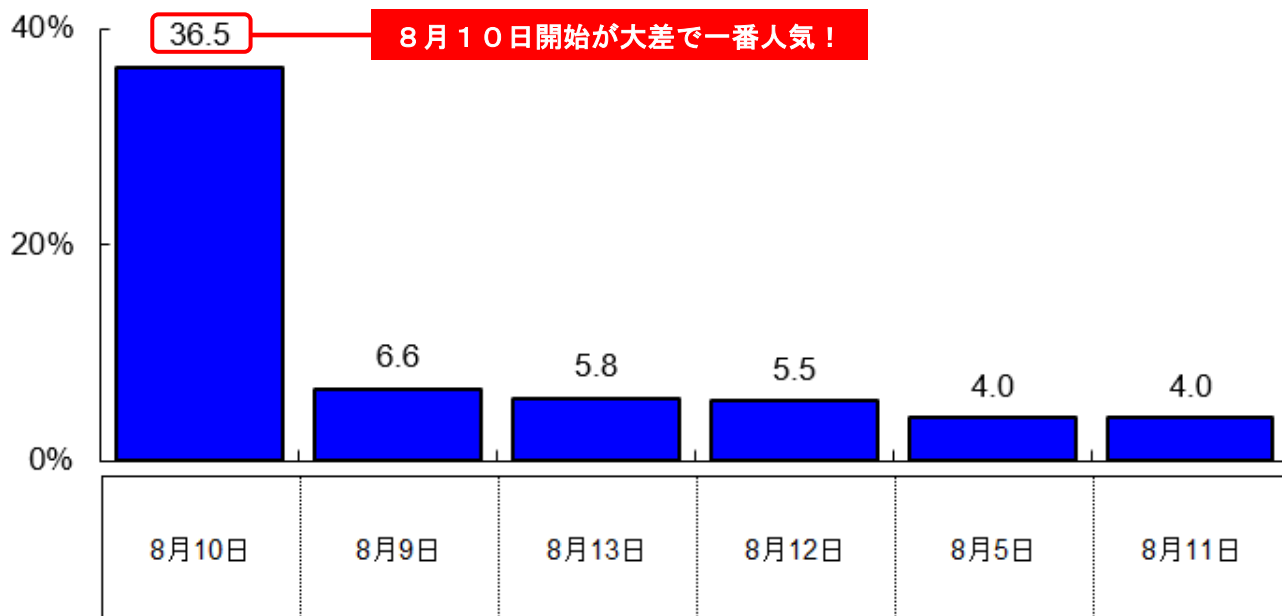
■会社員・公務員の夏休み取得予定

（回答対象：職業を会社員・公務員と回答した人）



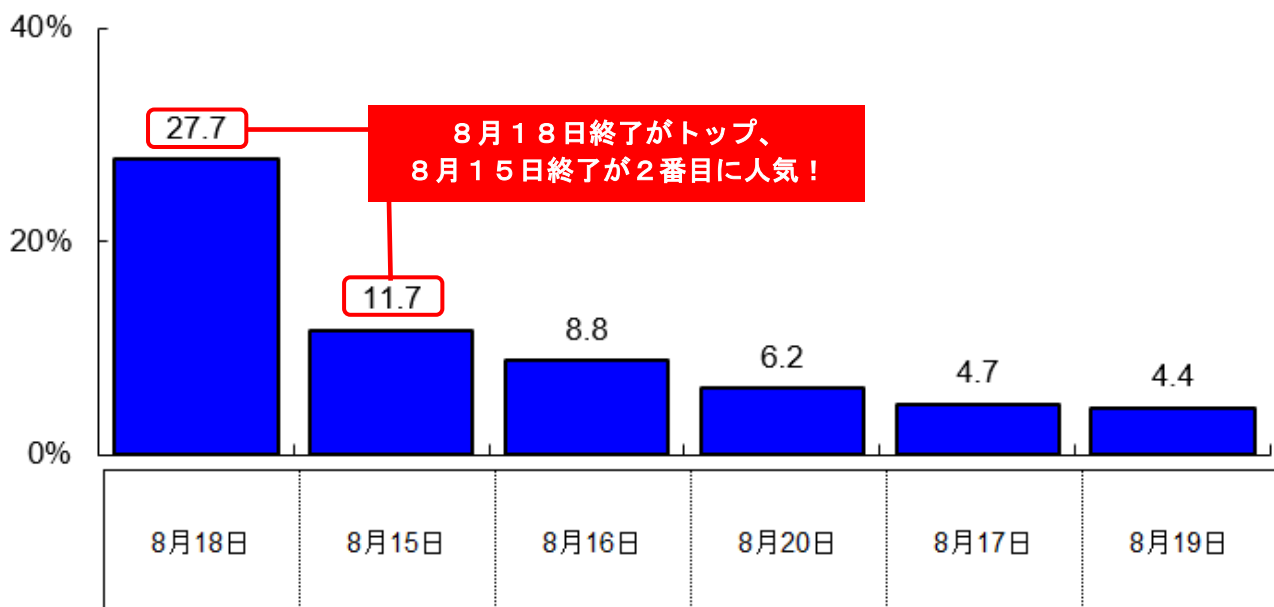
■会社員・公務員の今年の夏休み開始日上位

(回答対象：職業を会社員・公務員と回答した人のうち、夏休み取得予定日が決まっていると回答した人)



■会社員・公務員の今年の夏休み終了日上位

(回答対象：職業を会社員・公務員と回答した人のうち、夏休み取得予定日が決まっていると回答した人)



3. 夏休みの過ごし方

**物価高でも夏といえば旅行！お金をかけても旅行は欠かさない！
夏休みはGWの“安・近・短”から“高・遠・長”に！**

(1) 過ごし方について

- 今年の夏休みに「外出する」人は58.5%（昨年56.6%）、「外出しない」人は41.5%（昨年43.4%）と昨年に引き続き、6割に迫る人が今年の夏も外出する予定を立てています。
- 「外出する」と回答した人に夏休みの過ごし方を聞いたところ、「国内旅行」（56.9%）が昨年（54.6%）から増加し今年もトップとなりました。一方で、昨年26.2%で2位だった「帰省」は22.0%と昨年から減少し、コロナ明けだったこともあり、久しぶりに「帰省」する人が多かった昨年から、今年は「旅行」へシフトしているという傾向になりました。一方で、円安が影響したのか、「海外旅行」は7.3%と昨年（8.7%）から減少しています。
- 旅行に行く人にその理由を聞いたところ、「毎年旅行に行っているため」が52.5%でトップとなり、2位が「家族の都合が良かったため」（29.5%）、3位が「友人・家族等から誘われたため」（18.6%）と続く結果となりました。「毎年旅行に行っている」人のうち33.0%が、「夏休みに使う予算を増やす」と回答しており、全体の16.0%の2倍以上となりました。さらに、「毎年旅行に行っている」と回答した人のうち、約8割（77.3%）が「GWも旅行に行っていた」と回答し、定期的に旅行に行く人は、物価高や円安によって旅行費用が高騰している状況でも、惜しみなくお金をかけて旅行に行くという傾向がみてとれます。
- 一方で、外出しないと回答した人（41.5%）にその理由を聞くと、「暑いから」が43.7%と昨年（37.0%）から6.7p t増加しトップ、「混雑するから」が34.6%と昨年（29.4%）から5.2p t増加し2位、「物価が高騰しているから」が32.7%と昨年（29.8%）から2.9p t増加し3位になりました。物価高といった費用面よりも、猛威を振るう暑さが外出の最大の障壁となっているようです。また、「混雑するから」が昨年の4位から2位へ上昇し、昨今のオーバーツーリズム問題も外出に影響しているのかもしれませんが。

(2) 昨年の旅行との違いについて

- 「国内旅行」または「海外旅行」に行くとは回答した人に昨年までの旅行との違いを聞いたところ、「費用を増やす」（31.1%）、「遠くに行く」（24.6%）、「日数を増やす」（21.8%）が上位を占める結果となり、昨年の旅行より費用をかけて、遠くに日数をかけて行く“高・遠・長”の旅行になる傾向となりました。
- 今年のGWは、暦の関係で休みを長くとりにくかったことに加え、物価高の影響もあり、安（安い）・近（近い）・短（短い）の傾向がありましたが、対照的な結果となりました。

○昨年までの旅行との違いについて、変わった理由を聞いたところ、「物価高で費用を上げざるを得ないから」（36.5%）がトップとなり、「過ごし方」でも記載の通り、定期的に旅行に行く人は、物価高などの影響で旅行費用が高騰している状況でも、ある程度費用を増やしても旅行に行くという傾向がみてとれます。

～エコノミスト 前田 和孝はこう見る！～

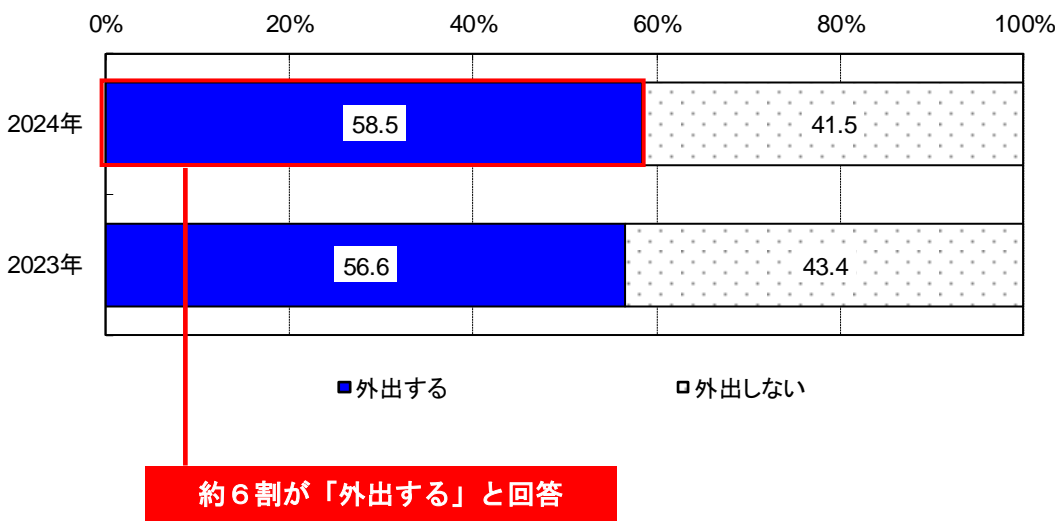
■明治安田総合研究所 エコノミスト 前田 和孝



今年の夏に外出する人の過ごし方では「国内旅行」がトップとなり、回答割合も昨年から増えました。円安で海外旅行のハードルが上がったため、国内旅行に切り替える人が増えているとみられます。ただ、こうした動きは、観光地にとっては魅力を再発見してもらうチャンスでもあります。この機会にぜひもう一度訪れたいと思ってもらえれば、仮に今後円高になり海外旅行に行きやすくなっても、旅行先の候補としてリストアップしてもらえる可能性が高まります。リピーターが増えれば、地域活性化のきっかけとなるポテンシャルも秘めています。

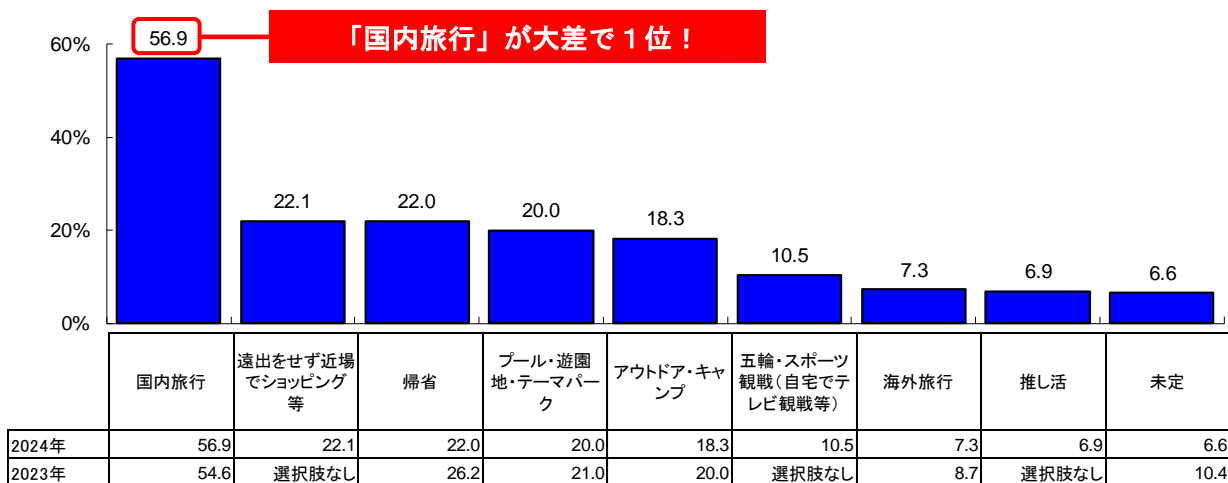
一方、外出しない人の理由を見ると、「暑いから」がトップとなっています。ここ数年、日本は毎年と言っていいほど記録的な暑さに見舞われており、外出を控える傾向は今後も続くとみられます。そのため、企業としては、インドアでもいかに快適に過ごしてもらえるかという視点で商品開発やマーケティングを行なうことが重要になってきます。動画配信サービスやネットショッピングなどはすでに多くの家庭に浸透していますが、新たなサービスを生み出すことができれば、夏場の消費にさらに火がつくことも考えられそうです。

■夏休みの外出有無



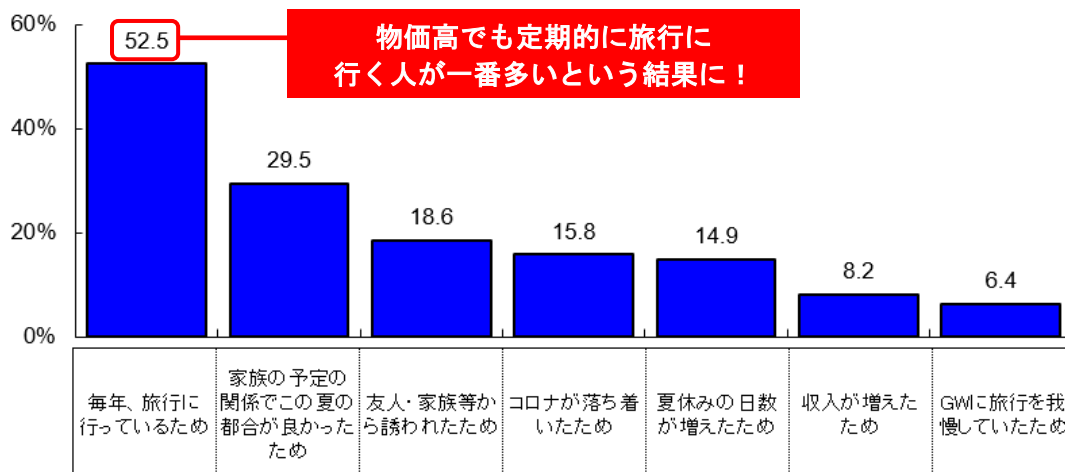
■夏休みの過ごし方（複数回答）

（回答対象：今年の夏休みに外出する人）



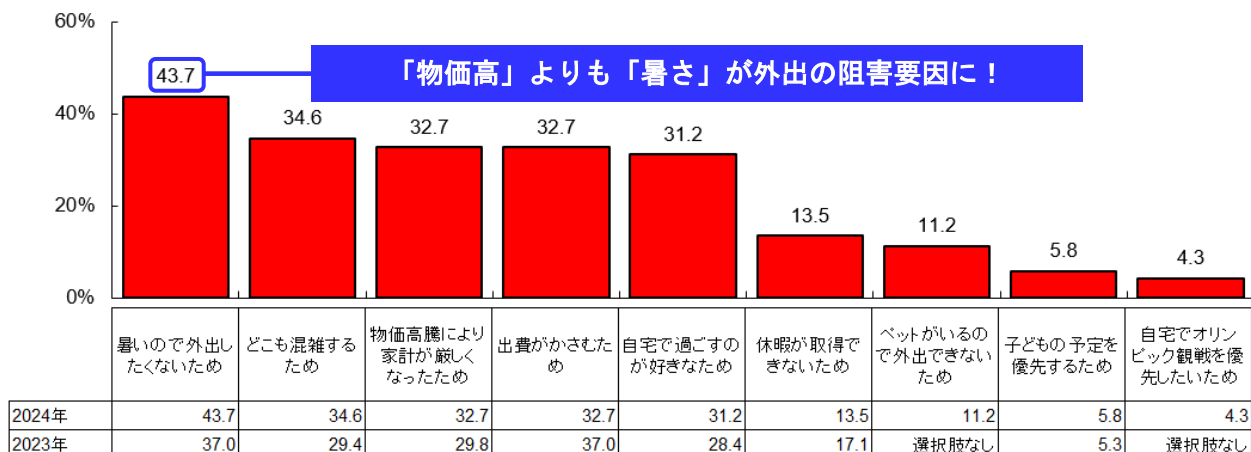
■今年の夏「旅行」に行く理由（複数回答）

（回答対象：「国内旅行」または「海外旅行」に行く人）



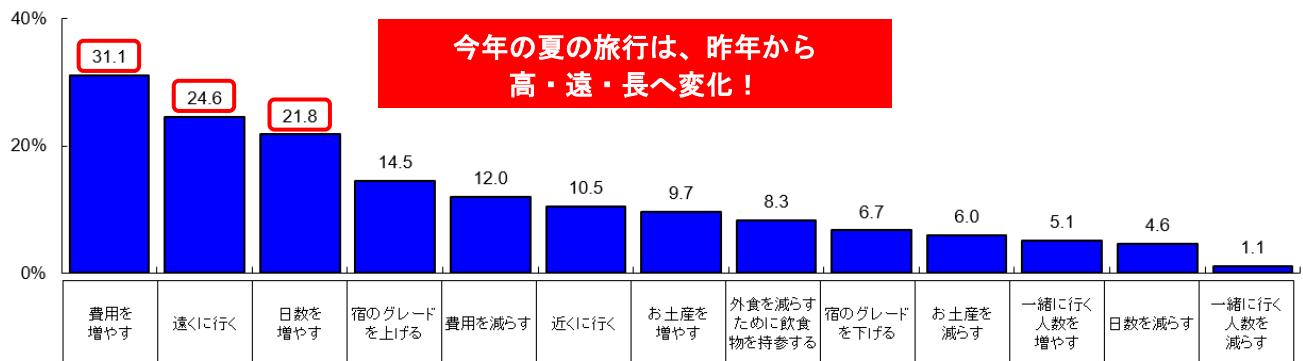
■今年の夏「外出しない」理由（複数回答）

（回答対象：今年の夏に「外出しない」人）



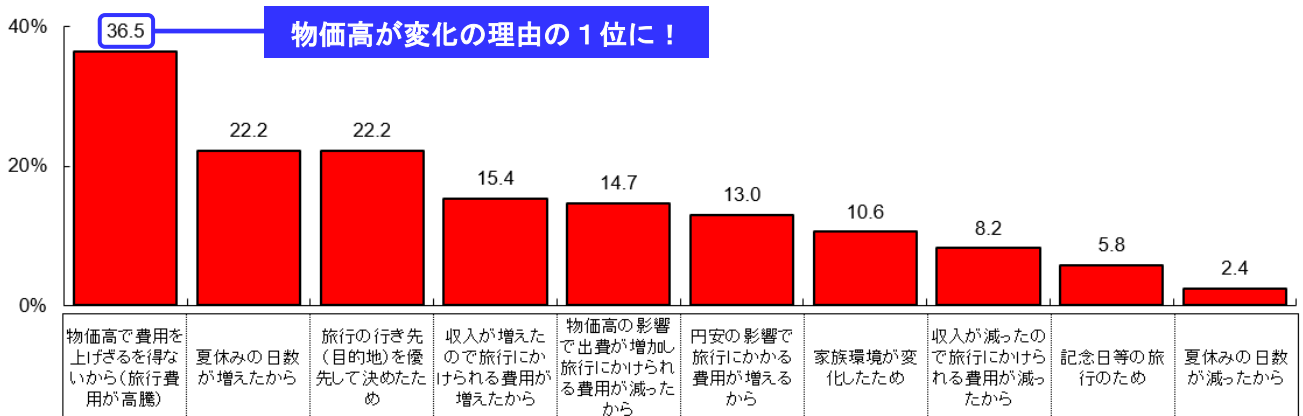
■今年の夏の旅行の変化（昨年の旅行との違い）（複数回答）

（回答対象：「国内旅行」または「海外旅行」に行く人）



■昨年の旅行から変化した理由（これまでの旅行との違い）（複数回答）

（回答対象：今年の夏の旅行が変化した人）

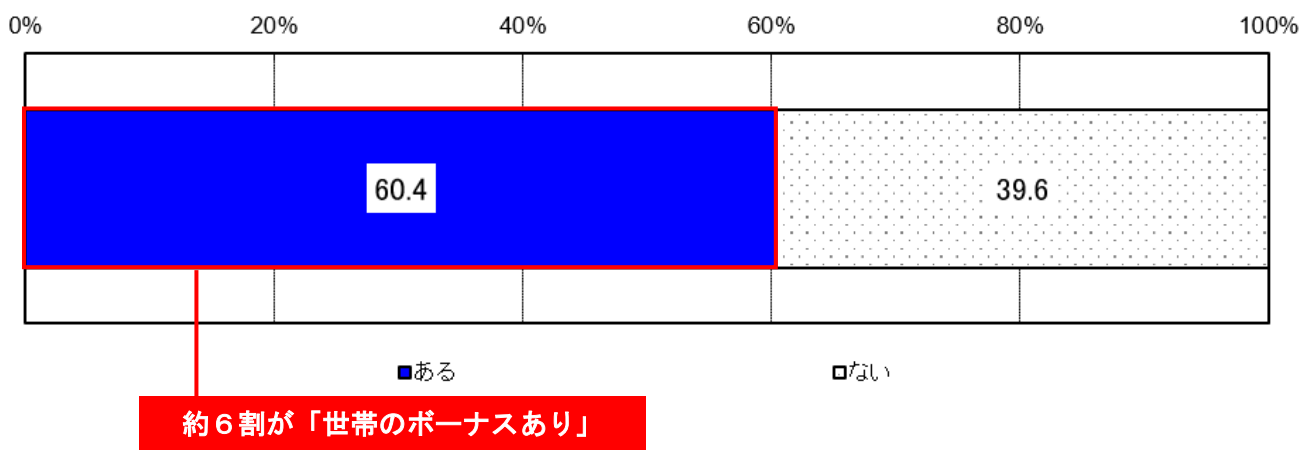


4. 夏のボーナス

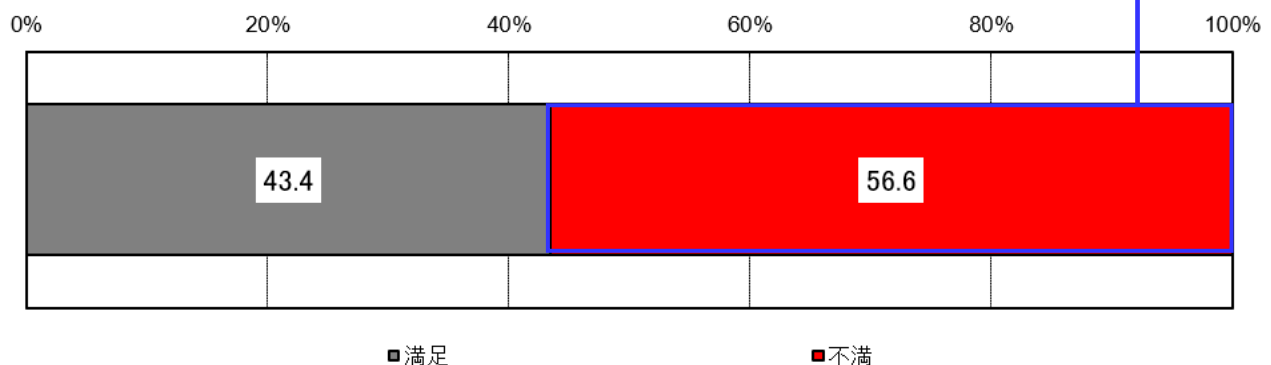
6割の世帯がボーナスを受け取っているものの、半数以上が金額に不満！

○夏のボーナスは約6割（60.4%）の世帯が受け取っているという結果になりました。
○受け取っている世帯にボーナスの金額に満足しているかを聞いたところ、半数以上（56.6%）が金額に不満と回答し、その理由として「物価上昇によって増えた出費を考えると不十分な額だから」が60.3%で1位となり、物価の上昇にボーナスの金額が追いついていないことが伺える結果となりました。

■世帯での夏のボーナス有無

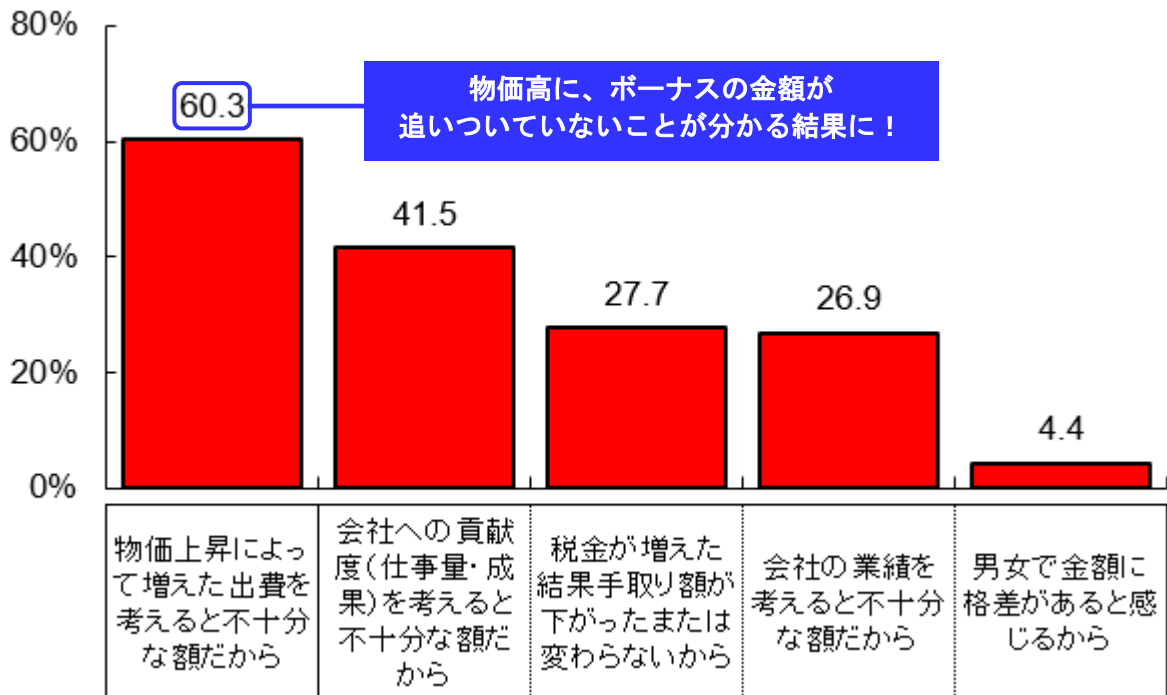


■夏のボーナスの金額への満足・不満足 (回答対象：世帯で夏のボーナスがある人)



■夏のボーナスの金額が不満な理由（複数回答）

（回答対象：世帯で夏のボーナスがある人のうち、金額を不満と回答した人）



5. 夏の暑さ対策

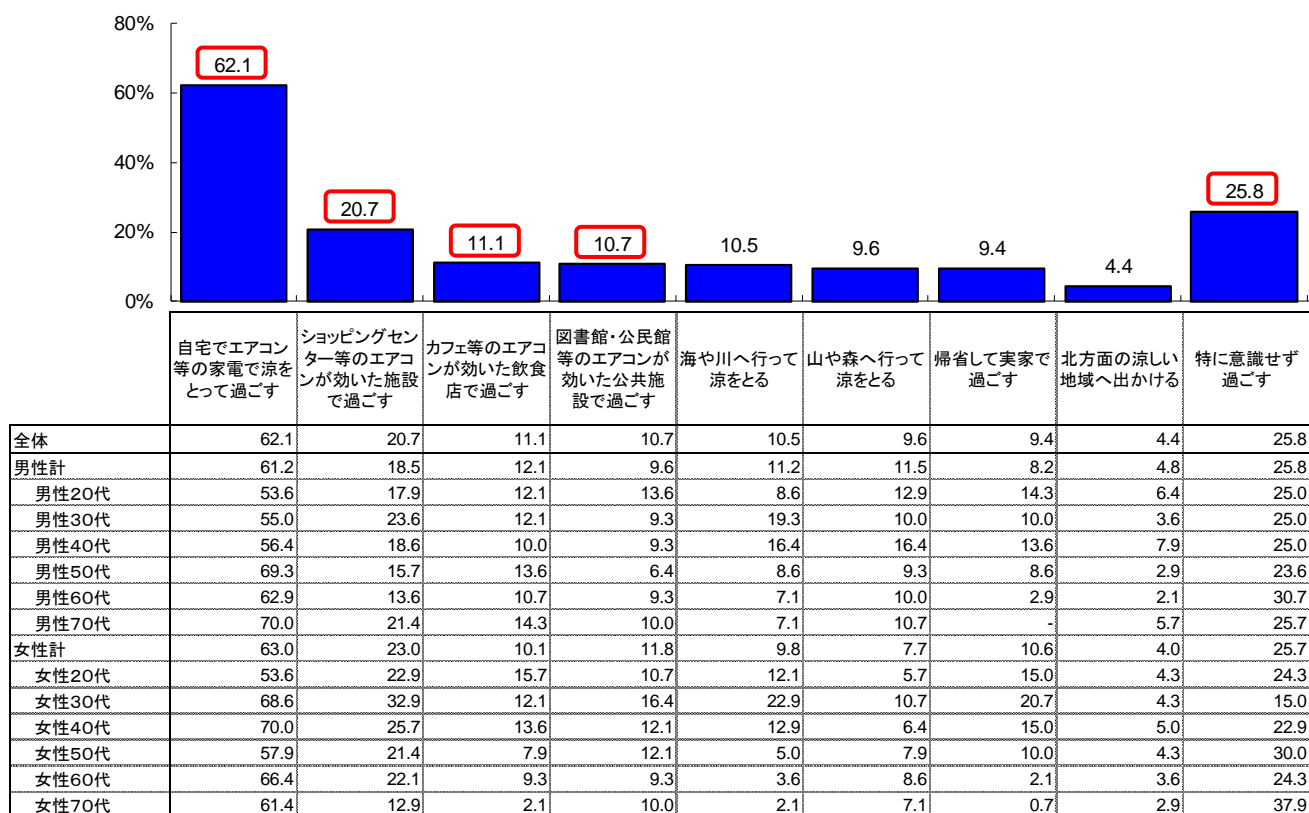
暑さ対策として意識的に自宅以外で過ごす人も！
暑さ対策を「特に意識しない人」のうち60・70代が約4割も！

○暑さ対策の過ごし方を聞いたところ、トップは「自宅でエアコンを使用して過ごす」（62.1%）でしたが、値上がりし続ける電気料金や、物価高の影響もあるのか、「ショッピングセンター等の商業施設で過ごす」が20.7%、「カフェ等の飲食店で過ごす」が11.1%、「図書館等の公共施設で過ごす」が10.7%と、意識的に自宅以外で過ごそうとしている人も一定数いるという結果となりました。

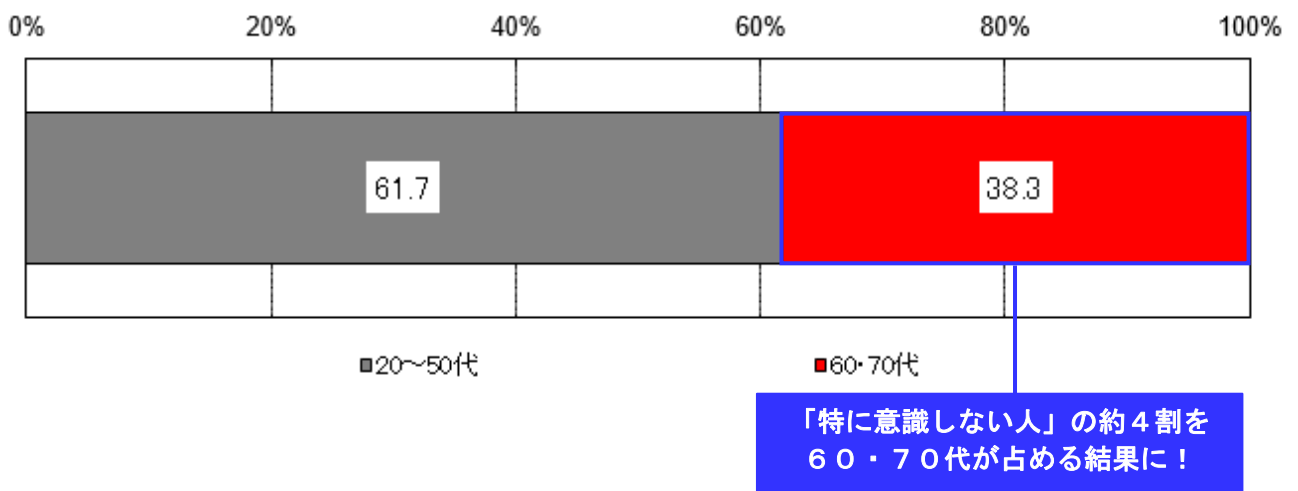
○今年の夏は、観測史上最も暑くなった昨年に匹敵する暑さとなる可能性があると言われていますが、暑さ対策について「特に意識せず過ごす」と回答した人は4人に1人（25.8%）となりました。年代別にみると、60・70代が約4割（38.3%）を占め、年齢が高い人の方が“意識をしていない”ことがわかりました。危険な暑さが続くことが予想されるこの夏は、年齢が高い人を中心に十分な暑さ対策を講じた方が良いのかもしれませんが。

■暑さ対策として予定している過ごし方は何ですか（複数回答）

（回答対象：20～70代の全ての人）



■ 「特に意識せず過ごす」と回答した人の年代別割合（20～70代）



以 上